

一般質問通告書

令和8年第1回定例会において、下記の事項について一般質問を行いたいので、会議規則第62条第2項の規定により通告します。

令和8年2月27日

議員氏名 北村 富男 

海津市議会議長 様

受領番号 第4号

受領日時 令和8年2月27日 14:30

要旨 1, 重要拠点の再生と将来像を見据えた賑わい創出の戦略について
質問相手 市長



質問内容

1, 重要拠点の再生と将来像を見据えた賑わい創出の戦略について

本市では、人口減少と地域経済の縮小が進む中で、持続可能な都市経営と地域活力の創出が喫緊の課題となっています。こうした状況下において、市内の重要拠点を戦略的に再生し、地域の魅力と利便性を高めることは、市民生活の向上と地域経済の活性化に直結する重要な政策テーマであると考えます。

その中でも特に、「クレール平田」および「月見の森」の両エリアは、本市の将来像を形作る上で極めて重要な位置づけにあると思います。

しかしながら、両エリア共に施設の老朽化、アクセスの課題、情報発信の不足など、ポテンシャルを十分に活かし切れていない面も見受けられます。

市長は令和8年度の施政方針において、「にぎわいあふれる魅力と活力づくり」を掲げ、「月見の森」のブランディングや「海津市長良川リバーサイドプラザ」の改修など、本市の重要拠点の価値を高めるための具体的な方針を示されました。これらの積極的な投資姿勢は、地域経済の活性化を望む市民にとって大きな期待を抱かせるものであります。

しかし、これらの拠点整備を実りあるものにするためには、単なる施設の更新や一時のイベントに留めず、10年後、20年後の海津市がどうあるべきかという「バックキャスト（将来像からの逆算）」の視点を、今この段階で明確にしておくことが重要であると考えます。

例えば、「月見の森」においては、ブランディング戦略策定後のテストマーケティングが、将来的な「滞在型観光」の確立や、安定した地域経済への還元にどう繋がっていくのか。また、「海津市長良川リバーサイドプラザ」についても、老朽化施設の更新と併せて、将来的にエリア全体がどのような役割を担うべきかという「目指すべき姿」を市民と共有することで、初めて投資の効果が最大化されるのではないのでしょうか。

将来を見据えた確かな「完成図」があつてこそ、現在の施策は点から線へと繋がり、市民の深い理解と納得を得られると思います。

厳しい財政状況下において、市民の理解を得つつ将来にわたる財政負担を軽減し事業を推進するためには、単なる公費投入ではなく、国庫補助金の戦略的活用や民間資金の導入、さらには企業版ふるさと納税などの多様な財源確保策が必要であると考えます。

両エリアについては、これまでも議員の方々が様々な視点から一般質問され、個々の課題や方向性などの提案を行ってきました。

これまでの答弁を踏まえ、本市の「賑わいのまちづくり」を一段高いフェーズへと引き上げるべく、両エリアの具体的な構想と、それを支える財源確保の取組みについて、以下4点質問します。

- ① 「月見の森」エリアブランディング戦略に基づき、テストマーケティング事業を通じて、どのような「魅力向上」と「賑わい」を具現化しようとしているのか。また、温泉ガストロノミー事業との連携による相乗効果についてお聞かせください。
- ② 「海津市長良川リバーサイドプラザ」の再整備が、周辺の「クレール平田」エリア全体の価値向上にどう直結するのか。将来的なエリア一体の完成図（グランドデザイン）をお聞かせください。
- ③ 持続可能な運営を可能とするために、現状の公費中心の整備の進め方でいいのか。将来への財政負担を軽減するためには、官民連携手法（PPP/PFI）の導入を検討すべきと考えるが、見解をお聞かせください。
- ④ 「バックキャスト」の視点から、10年後・20年後の本市において「月見の森」エリアおよび「クレール平田（リバーサイドプラザ）」エリアが、どのような賑わいと経済効果を生む拠点であるべきと考えているのかお聞かせください。